

第 3 号

発行所 大阪市史跡 龍溪禅師墓所
 霊亀山 九島禅院
 〒550 大阪市西区本町3丁目4-18
 ☎06-583-2725
 住 職 奥田啓知(智證)



ジャイアンツエイド と 仏教の教え

ジャイアンツエイドって知っていますか。そう、ニュースステーション(テレビ朝日)で、キャスター久米宏さんと漫画家黒鉄ヒロシ、コピライターの糸井重里さんたちで、巨人軍が優勝するかどうかを占うことが恒例となっています。去年、巨人軍の優勝で一応のピリオドになりましたが、ご存じな方も多い事でしょう。

一昨年、久米宏さんや、当時日本テレビの徳光アナウンサーが坊主頭になったことで世間の耳目を集めました。ことほど左様に、昨今は占いブームです。

「天中殺」や「大殺界」などプロ野球の優勝チームを予測した中させた占い師の著書がベストセラーに登場し、立志伝に数えられるにいたっては、何をか云わんやです。

仏教では「因果果報・自業自得」を根本理念とし、自分自身の自業(行為)が自得(環境)をきめると説かれています。これから考えると、運命とは、前世から運ばれた業により、この世の命を定めると考えられます。このことは、私たちが現世でつくった業が、そのまま来世につながることになるのです。でも、そのことは同時に、このよくな宿業(前世の行為)の報いはあるにはあるが、私たちの努力がいかによって、新しい善業をつくって古い悪業を打ち消すことができるのです。勿論、それはなまなかの努力ではできませんが、その救いの可能性において、仏教における業の教説は決して宿命論ではないので

誰しも、自分の運勢を知り、

災難、失敗などから逃れたいと考えます。そのこと自体は、何ら問題はないのですが、占い好きの方々は、占いを重視するあまり、人生においての失敗や災難は運命のなせるわざと思いとすれば自分のせいとはせずすべて運命のせいと片づけてしまいがちなのです。これは大きな間違いなのです。失敗、災難すべて自分のせいとしなければ仏教を学んでいる意味はないのです。そこに、昨日への反省、明日への向上が生まれてくるのです。

私たちは、困難や災難から逃れようとするのが常ですが、そうではなく、苦難を受け入れる心の準備が出来ることこそ、本当の幸せといえるのではないのでしょうか。



黄檗宗の施餓鬼会

当院施餓鬼法要

は後水尾法皇の 勅詔から始まる



施餓鬼会は水陸会、冥陽会
 施食ともいい、お盆の時期に
 多く厳修されますが、悪道に
 落ちて苦しんでいる衆生や餓
 鬼に施す法要のことで、それ
 以外の時にもなされます。

この法要の由来は、瑜伽焰
 口科範(ゆがえんこうかはん
)という教典にもとづいてい
 ます。

お釈迦さまの侍者をつとめ
 られた阿難尊者が、一人で修
 行しているところへ、あると
 き焰口餓鬼という鬼がやって
 きました。この鬼の形相はす
 さまじく、体はやせ衰え、口
 の中に火が燃え、喉は針鋒の
 ようで頭髪は乱れ爪や牙は長
 く、恐るべき姿でありました
 この鬼が阿難に向かつて、汝
 は三日のうちに命が尽きて餓
 鬼の中に生まれるであろうと
 言いました。

これを聞いた阿難は、恐れ
 おののき、どうすればその苦
 から逃れられるかと鬼に尋ね
 ました。すると、鬼は「汝も

し一切の餓鬼に飲食を施し、
 わがために三宝(仏・法・僧)
 を供養すれば、汝は長寿を得
 るし、わたしもまた餓鬼の苦
 しみから免れて、天上に生ま
 れることができると答
 えました。

そこで阿難は、早速、お
 釈迦さまのもとへ行き、餓鬼
 に飲食を施す方法をうかがい
 実行したために、餓鬼道に落
 ちる難から救われたというこ
 とです。

この由来に基づいて、施餓
 鬼会は広く行われているので
 す。当院水灯会(うらぼん施
 餓鬼法要)のお経もこの教典
 を読誦します。

俗に成長期に在って、飲食
 にガツガツしている子供を「
 ガキ」といいますが、飢えの
 一面をとらえたものです。こ
 のように、食欲に代表される
 煩悩(ぼんのう)むさぼり
 が満たされない人、もしくは
 そのような心の状態になった
 人のことを餓鬼というのです

また、飢渴(きかつ)の苦悩
 は、何も飲食物だけに限って
 あるのではなく、物心両面の
 欲求不満の苦悩でもあります
 例えば、食べようとしても
 焰(ほのお)を発し口にする
 ことができないということば
 つまり、手に入りそうで入ら
 ないというイライラした心の
 状態をいっているのです。ま
 た、自分の欲望を調節するこ
 とも、乏しさを耐えることも
 しないで、ただもつと欲しい
 と望む心の状態も餓鬼といえ
 るでしょう。さらに、物や金
 知識や名誉、地位などを必死
 に追求する人がありますが、
 これも餓鬼と姿といえます。

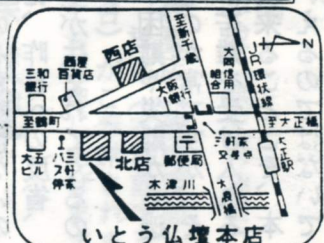
人間、よりよく生きていくた
 めには、これらも必要がもし
 れませんが、それだけが人生
 の目的ではありません。自分
 の周囲に悲しんでいる人がい
 たら、その人たちを慰めたり
 励ましたりして、共に明るく
 生きていけるようにしてあげ
 ることが大切なのです。例え
 ば、やさしい微笑み、温かみ
 静かな心で接するものが立派
 な施しなのです。このような
 施し、つまり「布施」こそ大
 切なのです。

中国では、餓鬼をたんに鬼
 ともいって、死人、あるいは
 死んでも供養を受けずに祖霊
 にならぬ霊魂をさします

— 仏事のことならおまかせ下さい! —

井 藤 仏 壇 店

本店 大正区三軒家
 東4-2-19
 ☎06-551-3072



社長の井藤信太郎氏
 は、先代和尚の清風
 高校の教え子です。

いとう仏壇本店

施餓鬼会で、祭壇(餓鬼壇)
 の正面に、「三界万靈有縁無縁
 諸精霊等位」と書かれた、大
 きな位牌を祀るのは、有縁仏
 はもとより餓鬼など無縁仏も
 供養することを表しています
 新旧を問わず、有縁無縁や亡
 くなられた方を供養すること
 により、その功德が廻り廻っ
 て自らに返ってくるのです。
 このようなことも、施餓鬼
 会を通して学んでいただくた
 いと思えます。

施餓鬼会にご参詣の方には
 お分かりだと思えますが、黄
 檗宗の施餓鬼会は、他の宗派
 と異なり、非常に特色あるも



競売新聞掲載
昭和63年1月28日朝刊

のです。黄檗宗は禅宗の一派ですが、今から三百余年前、中国の明から渡来した隠元禅師によって開かれた宗派です。隠元禅師は多くの門弟や文化人を伴って来朝、純中国式の黄檗山万福寺を建立され、日常行事もすべて中国式に行われました。そして三百年來その伝統が受け継がれています。そのため、黄檗宗で使用される教典は明時代のものであり、施餓鬼も当時のままです。上下二冊の長い教典で、数時間を要しますが、今日、各地方ではそれぞれ略されて、行わ

れていきます。勿論、読み方も当時のまま、明音(唐音)で、木魚、太鼓などの法具を用いて、独特の節で読まれます。また、水死者の霊を供養するため、川岸や船を浮かべて法要を営むこともあり、これを「川施餓鬼」といいます。当院の施餓鬼会もこの川施餓鬼と深い関係があります。当院の開山(寺を開かれた僧)龍溪禅師は寛文十年八月二十三日(一六七〇)、当地を襲った颶風大津波のため、堂前は覆没。弟子たちの避難を促す声のなか、生死は数なりと遺囑され、水定示寂されました。古人は龍溪禅師を称して「九条の人柱」と言い、その不慮の死を弔い、かつその死を無駄にせぬよう祈ったそうです。桂離宮や修学院離宮の造営その他で名高い後水尾法皇は龍溪禅師に嗣法(お弟子)されておられました。禅師の悲報に接せられ、郷土に災害のないよう、五穀豊穰を祈願される併せて禅師の菩提を弔われるため、翌寛文十一年詔される。当院において毎年八月水灯施餓鬼を執行されました。この施餓鬼会は宝永年間(一七〇四、一〇)中断していましたが、享保三年(一七一八)より毎年、八月十七日夜安治川

にて川施餓鬼として奉修されてきました。その後、場所を当院本堂にかえたものの、現在も当院で厳修されています。執行日も戦後、都合で八月十九日に変更されました。なおこの日は後水尾法皇の御祥命日にあたります。

○水灯会(うらばん施餓鬼)を厳修します。

別紙ご案内のように、水灯会(うらばん施餓鬼)法要を八月十九日(日)午後一時半より厳修致します。お施餓鬼は先祖をはじめ諸精霊に感謝の供養をする法要でもあります。墓檀家(当院墓地使用者)の皆様も、回向の申込を是非お願い致します。お施餓鬼料は多少にかかわらずご志納下されれば結構です。

○墓地管理費のご納付をお願いします。

当院墓地管理費規定(平成元年十月一日制定)に基づき、墓地管理費のご納付をお願い致します。お盆の墓参の折、又は郵便為替(口座番号 大阪3-111780番 名称九島院)でも結構です。出費他端の折柄、よろしく申し上げます。

檀 信 徒 の 皆 さ ま へ

○公告板を設置致しました。

宗教法人「九島院」規則第五条「この法人の公告は、事務所の掲示場に十日間掲示して行う」に基づき、掲示板を設置致しました。ご来院の際には、お目通し下さい。

○お盆櫛まいりをお願い。

恒例のお盆櫛まいりの時期がまもなくやってまいります。本年も昨年に引き続き、福田寺新堂 山下智玄師に加担をお願いしております。師は本山萬福寺で宗務本院主事をされています。小納とは、夏の教育講習会で十年來の付き合いで、師が中学生のときからよく知っており、弟のような気持ちです。なにぶん、田舎の山寺の出なので、大阪の地理に暗く、墨墨の穂積が道案内を兼ねて、ご参詣させて頂きます。一時にお参りしなければなりませんので、小納と分担してお参りさせて頂きますので、小納同様よろしくお願い致します。



奉納抄

本堂前に
青銅製香爐台・蠟燭台奉納
(平成二年四月吉日)

「墓参の方々へ、お墓まいりには、まず本堂のご本尊様に参拝してから、自分の家のご先祖様のお墓にお参りしましょう」との表示板を昨年立てましたが、本堂前でお参りしやすいように、ガラス戸の透明ガラスを増やし、ご本尊

様を拝みやすいように致しました。今般、吉川マサ殿より亡夫の廿五回忌に供養を兼ねて、青銅製の香爐台・蠟燭台が奉納されました。せいぜいご利用下さい。また、賽銭箱もついています。賽銭は後日一括してなにか社会福祉に寄贈する予定です。厚くお礼申し上げます。

本堂外壁内壁ペンキ塗装さる

(平成二年四月吉日)

現在の本堂は、昭和廿五年十月廿二日の落慶以来半世紀の風雪で老朽化が著しく、屋根の雨漏りもしましたが、急修理で何とか持たしてきました。やがて、抜本的な修理が必要で、小柄も、住職就任以来、来山の皆様が気持ちよくご参詣できますように、少しずつではありますが、修理を続けてきましたところ、この度、池野工務店(浪速区塩草)より、本堂の内外の壁のペンキ塗装を喜捨して頂きました。感謝し、厚くお礼申

上げます。

拜席台奉納

(平成二年三月吉日)

今般、森置店(豊中市城山町)より、拜席(本尊前で三拜をする台)がご奉納されました。厚くお礼申しあげます

編集集後記

○今回の龍灯は、読みにくくなってしまいました。次回より、読みやすい紙面をめざします。不悪ご了承下さい。

骸骨の数珠

あるお檀家さんの仏壇の経卓には、いつも、骸骨の数珠がのっています。数珠の珠(たま)が、それぞれ骸骨の形をしているのです。誠に薄気味悪いものですが、ご主人に聞くところによると、小さな時分よりあるそうで、とても怖かったとのことでした。

トチノチで有名な一休禪師は、ある年の元旦竿の先に骸骨をくくりつけ「御用心、御用心」といって京都の町中をかつぎ回ったと伝わっています。「門松は冥土までの一里塚ありがたくもあり ありがたくもなし」とも詠んでいます

いずれも一休禪師は、無常の世のあり方を人々に教えておられるのです。十年ひと昔とは、昔のこと。今の世の中、さしずめ一年ひと昔でしようか。毎日毎日忙しく過ぎ去っていきますしかし、長いと思っている歳月も大河のような時の流れのなかでは、ほんの瞬間でしかありません。一日一日を大切に精進していきたいものです。骸骨の数珠は無言のうちに、そのことを語っているのではないのでしょうか。

黄檗山では、大勢の雲水(修行者)が正覚をめざし、一日の始めと終わり(起床と消灯時)に今日一日の精進を誓い、自覚をうながすために巡照板を打ちならし、次のような偈文を唱えます。

さんべ だーちよん つつ
謹白大衆 (謹んで一切衆生に申す)

せんす すーだ し だい
生死事大 (生死は至大にして)

うーじやんしんそ せつ な
無常迅速 (無常は刹那より速い)

こーざ しんきよ つと さ さと
各宜醒覚 (各々務めて醒め悟れ)

しんう かあんい つつ ゆ だんたいまん
慎勿放逸 (慎んで油断怠慢するな)